

日本旧石器学会

ニュースレター 第38号

NEWS LETTER No. 38

JAPANESE PALAEOLITHIC RESEARCH ASSOCIATION



新しい『日本列島の旧石器時代遺跡』データベース ーオープンデータ・オープンサイエンス時代の考古学研究を目指してー

野口 淳（日本旧石器学会データベース委員会委員長）

1. JPRA-DBの到達点

資料・データの集成は考古学研究の基本中の基本と言える。卒業論文から学会・研究会による組織的な事業まで、数多くの集成作業が行われ、公開されているものも少なくない。しかし対象は膨大だ。文化庁によると日本全国で遺跡（埋蔵文化財包蔵地）は約46万カ所、毎年9千件の発掘が行われている¹⁾。情報は散逸していて、一元的に検索・閲覧できる仕組みはまだない。

そのような中で、日本旧石器学会のデータベース（日本旧石器学会編2010：以下JPRA-DB）は、対象が旧石器時代（一部、縄文時代草創期を含む）に限られるものの遺跡単位で約12,500件²⁾、地点・文化層単位では約16,800件ものデータを収録しているという点で大きな意義を有する。

収録データは位置情報（緯度・経度）を有するため、遺跡の所在地や属性ごとの分布図を地図上で可視化できる。また文献情報も整備されているので、出典に遡り、追加情報の取得も可能である。

学会では設立当初から、DB編さんを研究基盤整備にかかわる重要な取り組みのひとつと定め、2005年～2010年まで足かけ5年の期間を要し、歴代のDB委員会計11名のもと、学会内外約168名の研究者の協力によりDBは完成した。その貢献により、日本国内はもちろん、世界的に見ても類を見ない規模の考古学遺跡DBが完成した。

2. ウェブ版の公開

JPRA-DBの刊行部数は限られており、すぐに頒布は終了、入手困難となった。このため学会では、インターネットを通じた公開を検討、2016年6月、学会ウェブサイト上にPDF版とデータセット（.csv、.txt、.xls）をアップした。

DBページ（<https://palaeolithic.jp/data/index.html>）は誰でもアクセスでき、PDF版およびデータをダウンロードすることができる。ただし1.公表時の出典明記、2.再配布は要許諾、3.背景地図を含む

画像利用は国土地理院への申請承認が必要な場合がある、という利用条件が付されており完全に利用自由なオープンデータではない。

ウェブ版の公開は注目を集め、公開直後は1カ月で2.5万件を越えるリーチ数が記録され、学会ウェブサイト全体の9割を占めた。その後もアクセス数の5割前後がDBページである。しかし大半はPDF版の閲覧・ダウンロード・でデータの利用はあまり多くない様子うかがえる。

3. 利活用のひろがり

ウェブ版によるJPRA-DBの利活用事例として、宮崎県による「ひなたGIS」がある³⁾。宮崎県が開発運用している同GISは、特定ソフトのインストール不要、ウェブ・ブラウザだけで地図・地理情報の閲覧や編集が可能なシステムで、ここにJPRA-DBが組み込まれている。地図画面右上の「背景」→「文化財フォルダ」→「全国旧石器時代遺跡（MVT）」を選択するとJPRA-DB収録遺跡のうち位置情報を有するものが描画される。右端の(i)ボタンをクリックすると出典情報が示されるとともに、最下段の「石器種類」を選択すると器種別分布図に切り替えることができる⁴⁾。

ひなたGISは、国土地理院地図データ（標準地図、標高図、地形分類図、DEM）のほかに航空写真（現在・過去）、迅速測図、各種地形・地質図（川だけ地図、赤色立体図、CS立体図、シームレス地質図、全国土壌図など）も表示可能なので、様々な主題分布図を簡単に作成し、画像出力もできる。

なお2018年5月時点で同GISに収録されている考古学関連のデータは、JPRA-DBと縄文・弥生集落遺跡DB⁵⁾である。JPRA-DBは、外部でも利活用可能な考古学DBの先行例である。

4. 更新改訂への取り組み

JPRA-DBは刊行時点のデータで固定されており、ウェブ版もそれに準拠している。毎年追加される新規データは含まれないし、データ収集・入力・編集

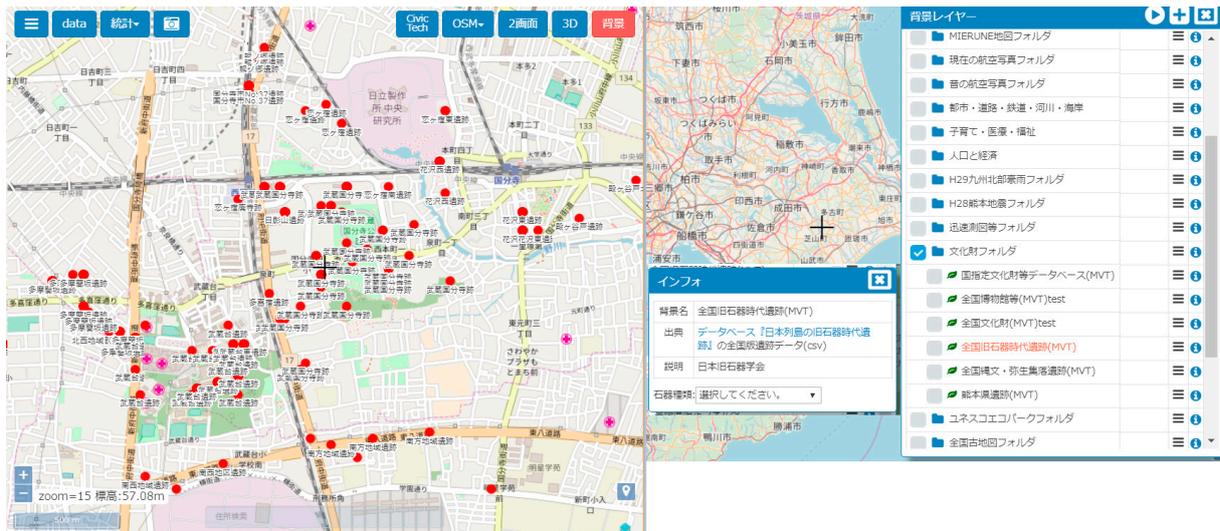


図1 ひなたGIS (背景地図: OSM)

段階の誤りも残っている。つねに最新の状態でアップデートされることが望ましいが、データの収集・入力とDBの保守管理コストが膨らみ現実的ではない。書籍形式で刊行すると、編集・印刷製本コストも必要となり、収益事業を基盤としない学会にとって非現実的である。

そこでDB委員会では、必要最小限のコストで最適化を図るべく、必要な部分だけを適宜、追加・変更し更新する仕組みを検討、表や地図から分離したデータ部分のみを改訂する方針を定めた。ウェブ上のクラウド・サービス（Googleドライブ、スプレッドシート）によりデータを共有、分担作業を集約して調整編集する工数を減らし、またウェブ上の地図サービス（Googleマイマップ）で入力された位置を表示・確認し、必要に応じて修正する方法を設計、マニュアルを整備した。

実際の作業については各地で「旧石器遺跡マッピング・パーティー」ワークショップを開催し、協力いただける方への周知を図っている。マッピング・パーティーとは、オープンストリートマップ⁶⁾に代表される、ボランティアベースで参加利用者が実際に確認した地理情報を地図データとして整備・公開するイベントである。旧石器遺跡マッピング・パーティーでは現地の踏査までは行わないが、経緯と現状に詳しい各地の研究者がDBの収録情報を確認しながら位置情報・内容の精度を高めることを目指している。提供者=利用者として、データの質・量を高めていく方法は、学会活動にふさわしいのではないかと考えている。

5. 「全国遺跡報告総覧」との連携

JPra-DBには多数の項目にわたる情報が収録されているが、それらは報告書等の出典ソースにもとづく。2010年版では書誌情報が執筆者・刊行年・タイ

トルの文字情報として網羅されているが、実は検索性に乏しい問題がある。

図書館情報の分野では、統一的な分類と書誌の特定のための識別子の付与が進められてきた。しかし遺跡発掘調査報告書については図書なのか行政文書なのか位置づけがあいまいにされてきたこともあり、情報化の流れから取り残されていた。この状況を改善するためにはじまったのが「全国遺跡資料リポジトリ」プロジェクトであり、それを引き継ぎ拡大的に展開しているのが「全国遺跡報告総覧（以下「総覧」）」⁷⁾である。

JPra-DBの編集過程でもっとも苦慮したことのひとつが出典書誌情報の確認であり、網羅的にチェックすることは実質不可能だった。そこで更新改訂を開始するにあたっては総覧との連携を前提とし、整備運用を担う奈良文化財研究所の担当者とは打ち合わせを行った。現在進めている更新改訂作業では、「総覧」収録書誌はリンクURLを入力しているので、インターネット環境下ではPDF版の報告書を閲覧可能になる。また「総覧」未収録の書誌情報は国立国会図書館やCiNiiなどのDBとリンクするようにしている。これにより出典が何であるのかが明示的になり、多くの場合、所蔵情報あるいは電子化された内容情報につながるようになる。

6. オープンデータ化とその意義

ウェブ版を公開し誰でもアクセス・利用できるようにすることは、実はオープンデータ化の入り口でしかない。

たとえばウェブ上で、印刷用に編集した表が画像で提供されている場合、データ（表の中の数値等）を直接再利用することは困難である。表の構成・構造を保ったデジタルデータ（例えばMicrosoft Excelの表形式ファイル）ならば、再集計などの操作がで

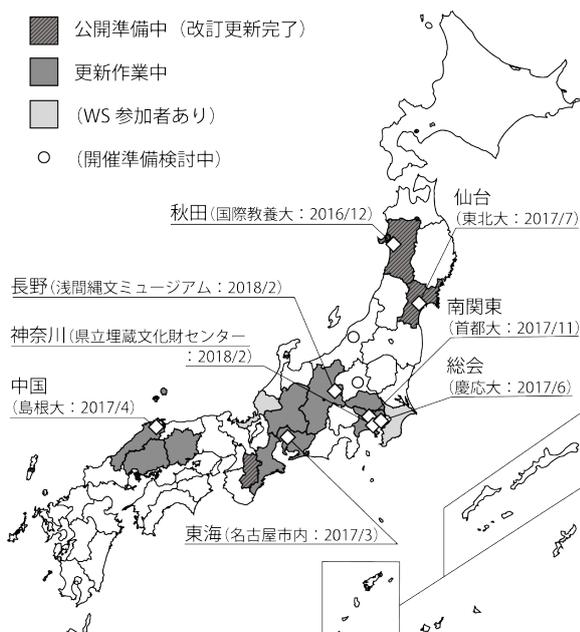


図2 改訂更新作業の進捗状況 (2018年5月現在)

きる。さらに.csv (カンマ区切りテキスト) 形式など特定のアプリケーション (ソフト) に拘束されないデータであれば、再利用可能性はより広がる。データを特定し他のDBとの関連付けを可能にする一意の識別子 (URI: Uni-form Resource Identifier) を与え、リンクを付与すると、単一のDBにとどまらないデータの検索収集等の利用が可能になる⁸⁾。

前述のとおりURIの整備が進んでいる文献情報では、識別子だけで対象を特定できる。これに対してJPRa-DBでは、収集した遺跡・地点・文化層単位のデータのセットに対して、固有の一意の識別子 (JPRa-ID) を与えている。更新改訂版のJPRa-DB上では、この識別子のもと、書誌情報と位置情報、内容情報が紐づけられている。今後、更新改訂版が公開され、たとえば「ひなたGIS」のデータも更新されると、同GIS上の地図表示画面からJPRa-IDを介して書誌情報にジャンプ、「総覧」収録済みならPDFをその場で閲覧することも可能になる。また「総覧」の側から地理情報へのリンクを橋渡しすることも可能である。このあたりの実装については、作業が完了した都道府県から順次予定している更新改訂版の公開とともに、整備を進めていきたいと考えている。

時間と労力をかけて収集したデータを公開してしまうことは、第三者がコストなしでそれらを利用できることにつながるのではないかとこの考え方も一方であり得る。データを利用した成果を公表するまでは、利用可能なかたちでの公開をするべきではないということに首肯できる部分もある。しかし公開することで、他のDBと連携しより多くの情報をつ

なげることで相乗効果を期待するという考え方もある。

たとえばウェブ版についてダウンロード利用があまり進んでいないのは、データをどのように扱ってよいのか分からない、専門のソフト等が必要なのではないかと、といった条件上の困難さが想定される。しかしウェブ版を公開し「ひなたGIS」に連携されたことにより、多様な主題図との重ね合わせを含めた地図表示は一気に解決された。日本旧石器学会は旧石器考古学の専門家集団ではあるが、GISやデータ解析などについて高度な知識や技能を有しているとは言えない。各分野の専門家との連携・協働が課題解決に大きく資するだろうことが、DBの公開の肝であると考えたい。

このような観点から、JPRa-DBは、日本の旧石器考古学データのハブとして機能し、評価されるべきである。将来的には、たとえば年代や石材産地推定分析などの個別的なデータ・DBとの連携を進め、JPRa-IDを介して、多様な情報のトラフィックを生起し旧石器考古学研究の進展、その基盤整備に資することができれば、まさしく日本旧石器学会の設立趣旨に合致することになるだろう。

謝 辞

2016~17年度のデータベース委員会の活動、とくにマッピング・パーティーの開催にあたっては、委員会諸氏の尽力はもちろんのこと以下の諸氏・諸機関のご協力を賜りました。記して感謝いたします (順不同)。

奈良文化財研究所、秋田県石器文化研究会、国際教養大学アジア地域連携研究機構、島根大学、島根大学図書館、中・四国旧石器文化談話会、慶應義塾大学民族学考古学研究室、東北大学考古学研究室、宮城県考古学会旧石器部会、浅間縄文ミュージアム、長野県旧石器文化研究交流会、八ヶ岳旧石器研究グループ、東海石器研究会、神奈川県立埋蔵文化財センター、神奈川県考古学会、石器文化研究会、金田明大、高田祐一、山口欧志、村田泰輔、落合謙次、根岸洋、及川穰、岩瀬彬、堤隆、三好元樹、高屋敷飛鳥。

註

- 1) 文化庁「埋蔵文化財」 (<http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/maizo.html>: 2018/5/6閲覧)
- 2) 旧石器時代、縄文時代でそれぞれ集計したものの合計のため重複を一部含む。
- 3) <https://hgis.pref.miyazaki.lg.jp/hinata/> (2018/5/6閲覧)
- 4) 2018年5月段階のGUIによる。
- 5) <https://www.rekihaku.ac.jp/doc/gaiyou/jomo.html> (2018/5/12閲覧)
- 6) <https://openstreetmap.jp/> (2018/5/12閲覧)
- 7) <http://sitereports.nabunken.go.jp/ja> (2018/5/12閲覧)
- 8) 「5つ星オープンデータ」 (<https://5stardata.info/ja/>: 2018/5/12閲覧)

日本旧石器学会役員選挙結果のお知らせ

2018年4月1日~15日に郵送で行われた次期日本旧石器学会役員選挙の投票に関し、投票作業を4月22日に行いました。集計結果を下記の通り報告します。なお、今回の選挙当選者は本年6月23日開催の総会で承認を受けた後、次期役員となる予定です。

1. 場所：東京都文京区内

2. 日時：2018年4月22日 14時00分~16時30分

3. 開票作業

麻生順司（選挙管理委員長）、飯田茂雄（選挙管理委員）、山田和史（選挙管理委員）、鈴木美保（総務委員）

4. 得票数

- | | |
|-------------|------|
| 1) 郵送投票枚数 | 99枚 |
| 2) 郵送有効投票枚数 | 98枚 |
| 3) 投票数 | 886票 |
| 4) 有効投票数 | 885票 |

5. 当選者

7地区の上位得票者1名(○印)と、それ以外の得票数上位15名が当選者

氏名	投票数	地域	順位
阿子島 香 あこしまかおる	68	東北	○
岩瀬 彬 いわせあきら	50	関東	1
沖 憲明 おきのりあき	46	中四国	○
尾田識好 おだのりよし	30	関東	9
小野章太郎 おのしょうたろう	22	東北	12
海部陽介 かいふようすけ	41	関東	4
加藤真二 かとうしんじ	50	近畿	○
門脇誠二 かどわきせいじ	42	中部	○

氏名	投票数	地域	順位
小原俊行 こはらとしゆき	28	関東	11
佐野勝宏 さのかつひろ	47	関東	2
下岡順直 したおかよりなお	21	関東	14
諏訪間 順 すわまじゆん	53	関東	○
立木宏明 ついきひろあき	29	中部	10
長崎潤一 ながさきじゆんいち	47	関東	2
中沢祐一 なかざわゆういち	39	北海道	○
橋詰 潤 はしづめじゆん	32	中部	7
馬籠亮道 まごめりょうどう	22	九州・ 沖縄	12
松本 茂 まつもとしげる	38	九州・ 沖縄	6
光石鳴巳 みついしなるみ	40	近畿	5
三好元樹 みよしもとき	21	中部	14
山崎真治 やまざきしんじ	44	九州・ 沖縄	○
渡辺丈彦 わたなべたけひこ	32	関東	7

以上の当選者の他、得票数が1票~4票の方が30名いました。その合計は43票です。

2018年度 日本旧石器学会 第16回総会・研究発表・ シンポジウムについて

2018年6月23日（土）・24日（日）に早稲田大学戸山キャンパスにおきまして、下記のとおり日本旧石器学会第16回総会・研究発表・シンポジウムを開催します。

シンポジウムは、「日本列島への人類拡散と後期旧石器時代の成立を考える」と題して行います。日本列島では約4万年前から旧石器時代の遺跡が増えます。その背景に大陸からのヒトの拡散の影響があったことは明らかですが、それがなぜどのように起きたのかについてはさらなる検討が必要です。近

年、東アジアの古環境や、哺乳動物群の展開に関する研究が進展し、形質人類学・遺伝人類学の成果と合わせ、後期旧石器時代が成立する背景的要因となる、東アジアの人間集団の分布や多様性の形成に関する理解が深まりつつあります。本シンポジウムでは、こうした関連分野の専門家から研究の現状報告をうけるとともに、列島およびその周辺の後期旧石器時代初頭の考古学的証拠やパターンを整理し、背景にある諸要因との関連を議論します。

2018年6月23日（土）

会場：早稲田大学 戸山キャンパス（東京都 新宿区 戸山1-24-1）

総会・研究発表会場：38号館2階38AV教室

ポスター会場：32号館224教室

○総会（13：30～14：30）＊12：30受付開始

○研究発表（14：45～17：00）

- ・西秋良宏「中期旧石器時代前半における新人ユーラシア拡散の可能性について」
- ・夏木大吾「北海道における縄文時代草創期文化の石器群」
- ・池谷信之・中川真人「相模原市橋本遺跡出土石器群の黒曜石原産地推定と編年的再検討」
- ・加藤真二「中国における“北方系細石刃石器群”の拡散について」
- ・金井拓人・保坂康夫「石英石器産地推定へのアプローチ」
- ・青木要祐「細石刃核甲板面にみられる擦痕の効果に関する予察」

＊一件20分（質疑込み、休憩15分）

○懇親会（17：30～20：00）＊開始時間は変更になる場合があります。

会場：染谷記念国際会館1階レセプションルーム

2018年6月24日（日）

シンポジウム会場：38号館2階38AV教室

ポスター会場：32号館224教室

○シンポジウム『日本列島への人類拡散と後期旧石器時代の成立を考える』（9：00～12：00）

＊8：30受付開始

- ・中沢祐一 「趣旨説明」
- ・入野智久 「更新世の東アジア地域の古気候変動と日本列島」
- ・松村博文 「アジアにおけるホモ・サピエンス拡散の二重構造モデル」

・太田博樹 「遺伝人類学からみた東アジア・日本列島への人類の拡散」

・河村 愛 「東アジア動物相の日本列島への拡散」

・上峯篤史 「日本列島の後期旧石器時代を遡る石器群」

・赤井文人・高倉純・中沢祐一 「古サハリン-北海道半島におけるLGM前の石器群」

・尾田識好・神田和彦 「古本州島の後期旧石器時代前半期石器群（東北部）」

・杉原敏之 「古本州島の後期旧石器時代前半期石器群（西南部）」

＊一件20分（質疑込み、休憩15分）

＊発表タイトルは変更になる場合があります。

<昼食休憩 12：00～13：30>

○ポスターセッション・コアタイム（12：30～13：30）

・野口 淳・横山 真・千葉 史・佐藤祐輔・神田和彦・渡邊 玲・小菅将夫 「石刃技法の3D形態測定学：考古学資料と実験資料を3D計測でつなぐ（1）」

・横山 真・野口 淳・千葉 史・佐藤祐輔・神田和彦・渡邊玲・小菅将夫 「石器製作ハンマーの3D形態測定学的検討：考古学資料と実験資料を3D計測でつなぐ（2）」

・光石鳴巳・白石 純・森先一貴 「岩屋産サヌカイトの評価をめぐる」

・堤 隆 「野辺山高原における後期旧石器時代の緑色チャート利用」

・及川 穰・横山 真・品川欣也・今野晃市・松山克胤・千葉 史・藤川 翔・粟野翔太 「広島県三次市下本谷遺跡の試掘調査と出土遺物の3D計測―出土状況の可視化と石器接合シミュレーション過程の報告―」

・白石浩之・加藤悠雅・社本有弥 「愛知県新城市萩平遺跡A地点隣接地における旧石器時代文化のもたらす意義」

・酒巻孝光 「星野遺跡地層たんけん館地点採集石器の紹介」

※併せて遺物の展示を行う予定。

・沖野 実 「愛媛県伊予市高見I遺跡2次調査速報」

・橋詰 潤 「新潟県小瀬ヶ沢洞窟遺跡出土石器の再検討」

- パネルディスカッション（13：30～15：00）
 ＊ディスカッションに際して次の簡単な報告があります（各10分程度）
 ・佐川正敏「中国の後期旧石器時代前半」
 ・中川和哉「韓国の後期旧石器時代前半」
 ○講評（15：00～15：15）
 ○閉会（15：15～15：30）

会場案内

早稲田大学 戸山キャンパス（東京都 新宿区 戸山1-24-1）※本部キャンパス（大隈講堂）ではありませんのでご注意ください。

<https://www.waseda.jp/top/access/toyama-campus>

宿泊

宿泊の斡旋はいたしませんので、各自でご手配ください。

参加申込

同封の葉書に必要事項を記入の上、**6月16日**までにご投函ください。また、やむを得ず総会を欠席される場合は、会則第5条により、欠席の委任状を含め全会員の5分の1以上の出席をもって総会が成立しますので、同葉書下段に記載された委任状に記入、押印のうえご投函願います。

2017年度普及講演会の報告

2018年2月24日（土）新潟市歴史博物館みなとびあセミナー室にて開催した2017年度普及講演会について報告する。会の開催にあたっては、新潟市歴史文化課との共催とすることで、会場使用料の免除、開催案内の市施設への配布やホームページへの掲載などのご配慮をいただいた。ご対応いただいた廣野耕造歴史文化課課長補佐、小林隆幸みなとびあ副館長にお礼申し上げます。

講演会のテーマは、旧石器時代における新潟と関東との関係である。まず、須藤隆司氏、新潟県津南町教育委員会の佐藤雅一氏に、関東・津南周辺の旧石器遺跡の様相を講演いただき、その後、筆者（沢田）が司会を務めて討論をおこなった。

須藤氏は、「北関東の旧石器文化」と題して、群馬地域の石器群の変遷を提示した後、各時期における集団の遊動領域や新潟との関係について講演された。そして、群馬の有樋尖頭器石器群や砂川型ナイフを伴う石器群と新潟（新潟は杉久保石器群）とで

共通する要素が認められること、細石刃石器群では両地域が同一の地域集団の領域に含まれることなどが示された。

佐藤雅一氏の講演は、「津南段丘に展開した旧石器文化」と題して、津南エリアの石器群の変遷について、石材の獲得と利用形態にも触れながら解説された。北関東との関係については、須藤氏の講演を受ける形で、東山系の胴抜原B遺跡、国府系の加用中条遺跡、数多く調査された杉久保石器群のなど、関連のある石器群を説明された。

後半の討論では、両氏の講演内容をなぞりながら、両地域の関係の変化やその背景を議論した。そして、集団の遊動領域・ルートの変化が両地域の関係に大きく影響したこと、これらの変化は約2万年にわたる後期旧石器時代における気候の変動や周辺地域の集団との関わりの影響による可能性が高いこと、群馬と新潟との集団の関係には信州の黒曜石産地が大きな役割を果たしたことなどを確認した。

冬季開催ということもあり、参加者は約40名にとどまった。しかしながら、来場いただいた方は大変熱心で、何人かの方が講演会終了後に残って講師に質問されていた。今回のテーマは、遺跡分布や石材利用から集団の遊動形態や領域の変化を読み解くという、「難しい」テーマであったが、参加者の反応は良かったように思う。

今回は筆者の地元の新潟で開催させていただいた。新潟県内では、県・市の教育委員会が主催する考古学関係の講座が数多く開催されているが、旧石器時代をテーマとしたものは少ない。筆者自身も、そうした講座の講師を務めることがあるが、旧石器時代以外のテーマを依頼されることも多い。他県の状況を十分承知しているわけではないが、当県と同様の地域も多いのではないだろうか。今後も、その



講演風景
 （講師は佐藤雅一氏）



討論風景

ような各地域の状況を踏まえながら、普及講演会をつうじて旧石器時代とその研究の周知と理解をはかってゆきたいと考えている。

(広報委員会 沢田 敦)

関連学会・出版情報

2018長野県旧石器文化研究交流会 シンポジウム「神子柴系石器群とは何か？」 開催報告

2018長野県旧石器研究交流会および、唐沢B遺跡発掘50周年・神子柴遺跡発掘60周年を記念したシンポジウム「神子柴系石器群とは何か」が 2月3日・4日に長野県浅間縄文ミュージアムにおいて開催された。

■ 2月3日(土) 2018長野県旧石器文化研究交流会
午前、野口淳日本旧石器学会データベース委員長を講師にデータベース・ワークショップが、実施された。

午後は、稲田孝司日本旧石器学会初代会長による講演会「神子柴石器群の成立過程とその意義」をはじめ、一般研究発表として1：中部高地における後期旧石器時代の展開(長崎治)、2：中部高地の後期旧石器時代遺跡—データベースからみた立地と分布(野口淳)、3：男女倉遺跡群の使用痕分析(村田弘之) 4：男女倉遺跡群分析の新視点—第I・III遺跡の再整理から(須藤隆司)の発表があった。

■ 2月4日(日) シンポジウム “神子柴系石器群とは何か?”

同日午前、まず5本の基調報告があった。1：最終氷期末の両面加工刺突具の変遷について(橋詰

潤)、2：パイフェイスを携えて(堤 隆)、3：先土器時代終末期における石材利用変化-細石器・神子柴系石器群を中心に(大竹憲昭)、4：神子柴型石斧の特質とその意義(橋本勝雄)、5：石斧への眼差し(長崎潤一)。午後は講演者と基調報告者をパネリストに、神子柴系石器群をめぐる諸問題のパネルディスカッションがなされた。

あわせて両日9本のポスターセッションがなされ、2日目のコアタイムには熱心なポスター解説がなされた。

予稿集のお申込みは、浅間縄文ミュージアムまでメールでお願いします。

(jomon@mx2.avis.ne.jp A4・56頁1800円)



会場風景(発表者は大竹憲昭氏)

■ シンポジウム “神子柴系石器群の成立と影響” 開催予告

本年9月29日(土) 13:00-17:00、9月30日(日) 9:00-15:00、長野県伊那市創造館において開催予定。伊那市創造館は、国重要文化財である神子柴遺跡の石器全点を展示する施設である。

・9月29日(土)：シンポジウム基調報告

1：神子柴系石器群の石材(中村由克)、2：神子柴集団の石器製作技術(大場正善)、3：神子柴遺跡再考(栗島義明)、4：西日本の非神子柴的世界(池谷信之)

・9月30日(日)：シンポジウム基調講演・講演会、パネルディスカッション

5：北海道における神子柴系石器群の存在性(中沢祐一)、6：神子柴遺跡の基礎的理解(堤 隆)、佐藤宏之東京大学大学院教授による講演「神子柴遺跡はなぜ残されたか」、パネルディスカッション。
※基調報告は質疑を含め各50分、講演会は60分。

詳しくはwebで、

(<http://mikoshiba.blog.so-net.ne.jp/>)。

(八ヶ岳旧石器研究グループ 堤 隆)

刊行のご案内：『氷河期からのたより：
野辺山高原に生きた旧石器のハンターたち』

体裁：A5版 24頁 オールカラー

発行：長野県南牧村教育委員会 2018年3月

執筆：小野昭・堤隆・橋詰潤・池山史華

目次：1.氷河期の自然環境/2.さかのぼる人類の歴史/3.氷河期の暮らし/4.石器づくりのワザ/5.黒曜石は語る/6.黒曜石の石器/7.旧石器遺跡を調べる/8.矢出川遺跡の発見/9.細石刃ってなあに/10.なぜ・なに旧石器時代

本誌は、地域の小・中学生を対象とした旧石器時代のガイドブックである。長野県の助成金を得て作成され、現在、南牧村美術民俗資料館において配布を行っている。平易な記述とビジュアルさを心がけ、対象層に対しやや専門的な内容を、石器や遺跡の具体的な観察視点の紹介を通じて、身近なものとして理解してもらえよう努めた。野辺山高原の事例を中心としつつも、旧石器時代の研究方法・研究現状について各項において触れ、よりマクロな視点から日本列島の旧石器時代を概観できる内容を目指した。児童・生徒が旧石器時代へ興味を持つ契機となり、また広く一般の手引きともなれば幸いである。
(東京大学大学院 池山史華)

希望者には送料ご負担で無償配布します(先着50名)。140円切手を同封し以下にお申込みください。

〒389-0207 長野県御代田町馬瀬口1901-1
浅間縄文ミュージアム 野辺山旧石器ガイド係



お知らせ

メーリングリストの運用について

日本旧石器学会ではメーリングリストの運用を行っています。これは学会からの連絡手段として利用するとともに、情報交換の場として活用していくために設けたものです。ただ、運用から4年以上が

たちましたがまだ多くの方が未登録のままとなっています。まだ登録していない会員諸氏におかれましてはメーリングリストにご登録ください。メールアドレスを、事務局のメールアドレス(jimu@palaeolithic.jp)までお知らせください。速やかにご利用できるようにします。強制するものではありませんが、ご協力をお願い申し上げます。

会費納入・住所変更手続きのお願い

日本旧石器学会は、皆様の会費によって運営されていますので、会費は原則前納制としております。本ニュースレター同封の払込取扱票を用いて、今年度分会費の納入をお願いします。振込先は、日本旧石器学会 郵便振替番号00180-8-408055です。全国の郵便局で簡単に手続きいただけます。前号・前々号でお知らせしたとおり、**今年度より年会費が6,000円になります**。御理解のほどよろしくお願います。

また、会費滞納は本会運営に大きな支障を招く原因になりますので、同封の会費納入状況を御確認のうえ、2017年度以前の会費を未納の方は、未納分もあわせて納入をお願いいたします。

転居をされた方は、必ず住所変更の手続きをお願いいたします。郵便局に転居届を出されていても、本会では郵便局以外の配送会社を利用していますので転送していただけません。会費納入の際に払込取扱票に新住所を記載いただくか、または事務局までメール等で御連絡ください。

日本旧石器学会入会申込み手続きについて

日本旧石器学会入会申込みにつきましては、入会申込書を日本旧石器学会ホームページからダウンロード(<http://palaeolithic.jp/join.htm>)し、必要事項を記載の上、日本旧石器学会事務局へ郵送してください。入会資格審査にあたっては論文等著作物の提出を求める場合があります。ご協力ください。

日本旧石器学会ニュースレター 第38号
2018年5月18日発行
編集: 日本旧石器学会ニュースレター委員会
氏家敏之・橋詰潤・馬籠亮道
発行: 日本旧石器学会
事務局: 〒192-0364
東京都八王子市南大沢1-1
首都大学東京 都市教養学部
人文・社会系 歴史・考古学分野
E-mail jimu@palaeolithic.jp
HP <http://palaeolithic.jp/index.htm>